

4. 牛体外受精卵の高度生産技術の確立(H30~32)

○背景

○県産和牛の増頭

- ・県産ブランド牛の需要が高いが、生産頭数が不足
- ・増産対策として受精卵移植技術の利用
→乳牛へ和牛受精卵の移植



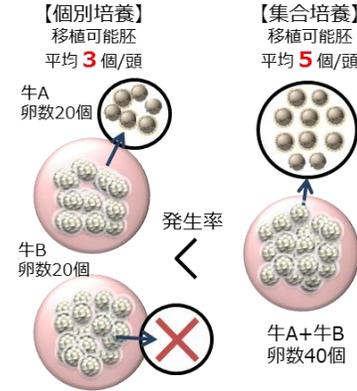
○体外受精技術の活用

- ・生体由来の受精卵は供給不足
- ・と畜卵巣から体外受精卵が生産可能
- ・体外受精技術は課題点も多く、さらなる技術改良が必要



○培養技術の改良

- ・血統登録には個体培養が必要だが発生率が不安定



○凍結保存技術の改善

- ・体外受精卵の生存率の高い凍結技術の改良
- ・農家利用に向け、処理効率の向上が必要

処理時間を短く、受胎率の高い技術を検討



○試験内容

○受精卵生産供給体制拡充のため体外受精卵生産技術の高度化を図る

- 1) 体外受精卵培養技術の確立(H30~32)
 - ・個体別少量培養に適した培養液や培養時間等の比較検討
- 2) 体外受精卵の凍結技術の効率化(H30~32)
 - ・複数の受精卵を同時処理できる凍結処理条件の検討と封入器具の開発



○期待される効果

- 体外受精技術の高度化を図ることにより
 - 1) 血統登録可能な体外受精卵の作出
 - 2) 効率的な凍結体外受精卵の農家普及

【甲州牛の増産】

- 体外受精による和牛受精卵供給数↑
- ・体外受精卵生産数 (技術目標：5個/頭)
- ・県有供卵牛の廃用 (年間平均：20頭)
→ **5個×20頭 = 100個/年の増産**

